
第二十二回 原子力市民委員会

原発事故被災における「語られぬもの」を可視化する ～心身ストレス、ジェンダー、優生思想と分断～

東電福島原発事故がもたらしている被害について、原子力市民委員会（CCNE）では、被害の全体像と多様な側面、被害者自身の被災の受けとめ方や思いに留意しつつ、救済策や支援策を検討・提言してきました。とはいえ、まだまだ原発事故被害の複雑な全貌を十分に描ききれていないという反省があります。

原発過酷事故が地域社会にもたらす影響には、放射能による広域汚染という特異な状況ゆえに、語りにくさ、見えにくさが伴います。そのことが心身のストレス蓄積をまねいたり、分断や差別を引き起こしたりもします。

避難者への支援打ち切り、強引な「帰還」政策がもたらす矛盾、甲状腺がん検診と治療をめぐる問題、損害賠償訴訟などといった一連の、はっきり目に見える事態への対応はもちろん重要ですが、ストレスや分断・差別といった見えにくく、語りにくいことから、原発事故被害の重要な側面であるとはっきり認識し、対処と支援を考えていくことが不可欠です。そうした試みを通じて、福島県内／県外、避難者／継続居住者、世代や性別といったさまざまな属性で分類されがちな原発事故被害者に共通する苦悩を受け止めたいと思います。

委員会とはどなたでも傍聴いただけますので、ぜひ多くの皆様にご参集いただけると幸いです。

- 日 時： 2018年 **12**月**2**日（日）14:30～17:30
 - 会 場： 文京シビックセンター スカイホール
(東京都文京区春日1-16-21 文京シビックセンター26階)
 - プログラム（予定）：
 - (1) 解題： 原発事故による被害・影響の多様性と語りえぬ受苦
／細川弘明（京都精華大学人文学部教授、原子力市民委員会 事務局長）
 - (2) 「原発事故後の親子の生活と健康にみるストレス
—— 中通りでの継続的アンケート調査から見てきたもの」
／成元哲（中京大学現代社会学部教授、原子力市民委員会 アドバイザー）
コメント／除本理史（大阪市立大学大学院経営学研究科教授、原子力市民委員会 委員）
 - (3) 「原発事故被害とジェンダー —— 「差別」をめぐる問題を手がかりとして」
／清水奈名子（宇都宮大学学術院国際学部准教授、原子力市民委員会 委員）
 - (4) 「もつれた糸のほどき方 —— 語られぬもの、分断、差別」
／疋田香澄さん（保養中間支援団体「リフレッシュサポート」代表、
『原発事故後の子ども保養支援』（人文書院）の著者）
 - (5) 全体ディスカッション
 - (6) 各部会・プロジェクトチームの進捗報告、今後の取り組み予定など
 - 申込み： 当日でもご参加いただけますが、資料準備の都合上、11月30日（金）
までに下記のEmailかFaxにて、お申込みいただけますと幸いです。
 - 主催： 原子力市民委員会
-



お問合せ：原子力市民委員会事務局

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町4-15 新井ビル3階(高木仁三郎市民科学基金内)

Tel & Fax 03-3358-7064 E-mail: email@ccnejapan.com <http://www.ccnejapan.com>